南の風

Shaplaneer since 1972
vol.283
2019.March

特集

思いをつなぐ商品づくり

シャプラニールのフェアトレード
「クラフトリンク」の現場より

INDEX

特集
3 思いをつなぐ商品づくり
シャプラニールのフェアトレード「クラフトリンク」の現場より

4 解剖! クラフトリンクの大人気商品
カラフル手織りポーチができるまで

6 白熱! 商品開発会議
2019年春夏コレクション新商品
「ダブルファスナーポーチ」ができるまで

8 思いを共にするパートナー生産団体

11 クラフトリンクモデル INTERVIEW!
きむらゆきさん

13 結びにかえて

14 「心」に寄り添う支援を
〜ロヒンギャ難民支援報告〜

16 PROJECT・NEWS
より多くの人に防災を伝えたい(ネパール)
県内すべての世帯を調査中(バングラデシュ)

18 理事・評議員からのメッセージ
「誰も取り残さない」を応援する"評価"があります
シャプラニール理事 今田 克司さん

21 クラフトリンクからのお知らせ
「太陽とヒマラヤの恵み 香るチャイマサラ」
販売開始します

22 シャテシャテ!
株式会社ミナトマネジメント

23 シャプラバ
会報誌「南の風」デザイナー 柴田 篤元さん

24 PHOTOきちゅね/ハンチカ /今月の切手

25 シャプラ文化部
実はあまり知られていない?
バングラデシュのスマートフォン事情

26 バングラデシュ駐在員
帰国報告会を開催しました

27 お知らせ

ネパールのパートナー生産団体、
ACP(Association for Craft Producers)の生産現場。
女性がひとつひとつ手で、丁寧にフェルトの商品を作っていく。
(撮影:原囿心)

Shaplaneer since 1972

「誰も取り残さない。」

社会のさまざまな制度や仕組みから取り残され、
すべての人が持つ豊かな可能性が
奪われてしまうことがあります。

私たちは人に寄り添い自らも当事者になることで
社会課題の解決を進めています。

誰も取り残されない社会、
貧困のない社会の実現をめざして。

南の風 通巻283号(季刊)
2019年3月1日発行

発行元 特定非営利活動法人
シャプラニール=市民による海外協力の会
発行人 岩城幸男
編集長 小松豊明
編 集 上嶋佑紀 原囿心 藤﨑文子 宮原麻季
デザイン 柴田篤元(matricaria.)
印 刷 株式会社上毛印刷

東京事務所(火曜から土曜 10:00〜18:00、日曜、月曜、祝日定休)
〒169-8611 東京都新宿区西早稲田2-3-1 早稲田奉仕園内
TEL 03-3202-7863 FAX 03-3202-4593
E-mail info@shaplaneer.org
Web https://www.shaplaneer.org/

クラフトリンクの商品は、バングラデシュとネパールの生産者によって手作りされています。これら商品の企画から皆さまのお手元に届く過程には、現地生産者だけにとどまらず、日本国内において生産者を応援する思いを持つ人々も多くかかわっています。
今回の特集では、普段なかなか表に出てこない日本国内の商品企画やカタログ制作の様子も含めて、どのような人の手を介して商品が皆さまのお手元に届くのか、その舞台裏をご紹介します。

特集

思いをつなぐ商品づくり

シャプラニールのフェアトレード「クラフトリンク」の現場より

文／宮原麻季 赤井希 野口歩（クラフトリンクグループ）

織りポーチができるまで

3 手織り

「紡がれた糸は、「地機織り（じばたおり）」といわれるネパールの伝統的な技法で織られ一枚の布になります。地機織りは機械を使わずに木の板と糸があればどこでも作業ができるため、遠隔地に住む女性も自宅で作業をすることができます。」

4 縫製

「こうして出来上がった布は裁断して縫製されますが、その際に余った糸や布がでてきます。カラフル手織りポーチは、実はその余った糸や端切れが有効活用されたアイデア商品なのです！」

だから、わたしは
カラフルなんだね♪

「いろんな工程を経て、ものづくりが行われているんだね！ お母さんたちの顔がいきいきしていて、わたしも嬉しいな。最後に、わたしが尊敬するサンプル制作担当のチューマヤさんのお話をご紹介します。」

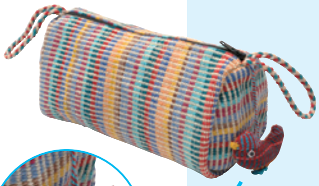
生産者 Voice

「仕事を通じて、社会で生き抜く自信をもらいました」

チューマヤ・プラジャさん（サンプル制作、縫製指導担当）

私は生まれてまもなく高熱により両足が動かなくなり、車いすで生活しています。WSDOと出会ったことをきっかけに、職業訓練を受け自分の力で収入を得て、貯金も出来るようになりました。以前は体を動かすことも苦労していましたが、今ではWSDOの生産者代表としてケニアで開かれたフェアトレードに関する国際会議に参加できるほどになりました。現在は姪と暮らしていますが、姪たちの生活の世話や仕事で忙しく、充実した日々を送っています。

解剖 クラフトリンクの大人気商品 カラフル手



トリのチャームがアクセント♪

クラフトリンクの商品は、よく「人の手のぬくもりが伝わってくるようだ」と言われます。それは、たくさんの人の手を経て、思いや笑顔を乗せているからかもしれません。ここでは人気商品の生産現場をご紹介します。

こんにちは トリです！

わたしが紹介します！

「わたしのふるさとは、ネパールのポカラという地域です。クラフトリンクのパートナー生産団体であるWSDO（Women' s Skill Development Organization）という団体で働く女性たちがわたしのお母さんです。」

1 染色

「まずは、糸の染色から。手作業で染色しています。草木で染め上げられるものもあります。同じ色合いを出すことは実はとても難しいのですが、熟練のお母さんにとってはお手のもの！」

皆でおしゃべりしながら、賑やかで楽しい職場です

2 糸巻き

「天日干しで乾かされた糸は、人の手で紡がれていきます。」

高速回転！目がまわる―

ここに注目！ 障害を抱えても活躍できる職場づくり

ポーチの両端には開閉がしやすいように紐が付けられていますが、こうしたかぎ針編みの工程は目や足の不自由な方が担当しています。WSDOでは、「商品の使いやすさ」と、障害者など厳しい状況におかれた人たちの「活躍の場を広げること」が両立するよう考えられています。

3月春分の日、イランのお正月です。挨拶の定番は、エイデ・ショマー・モバラキ!!です。
（アラフジャバディ寧予／ステナイ生活）

商品を企画立案するときには、クラフトリンクのコンセプト「つながる、手仕事のある暮らし」をベースに、お客さまの反応や過去の売り上げを見ながら次シーズンの新商品を考えていきます。

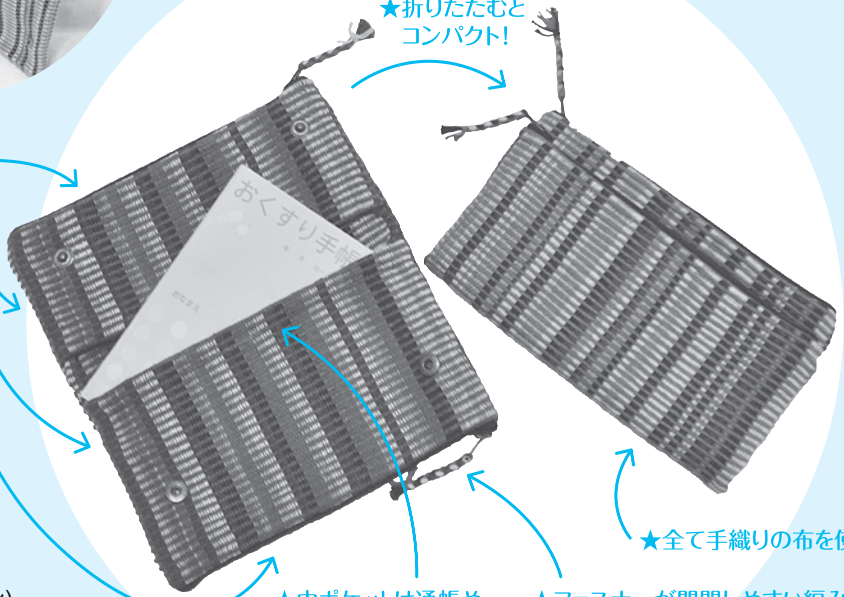
商品開発会議は、クラフトリンクの全職員が参加する大事な会議で、商品の企画のアウトラインを決めるためのものです。商品開発担当、カタログ担当、営業担当といった、すべての担当者が自分の担当する立場からの意見を多方面から出し合い、商品企画を作り上げていきます。

やはり議論のポイントとなるのは、価格とデザインについてです。あまりにも値段が高いものは日本のお客さまもフェアトレードと理解はしつつも、手が出せません。生産者が見たこともないような複雑なデザインにすると、クラフトリンクと現地との間で認識のすり合わせを慎重にしていく必要があり、過去にはここでずれが生じてしまうこともありました。

この商品を作っているWSDOは、生産者の雇用を創出するために工程のすべてを手仕事にこだわっていますが、それゆえ価格が高くなってしまう傾向にあります。しかしながら、この団体の持つ手織布の風合いや縫製の正確さは大きな強みと言えます。そのため、商品企画ではこの強みと価格面との折り合いをつけるためのアイディア出しが焦点になりました。

多機能なポーチが完成！

WSDOの商品の特徴である、ファスナー部分についた編み紐は目の見えない生産者の作業です。もちろん生地はすべて手織です。
WSDOの生産者の強みを生かした一品です。たくさんの人の生活の中で長く使われることを願っています。



コード番号：09363（レッド）
09364（グリーン）
サイズ：約12cm×19cm（折りたたみ時）
価格：2,700円（税込）
カラー：レッド／グリーン

白熱 商品開発会議

2019年春夏コレクション新商品「ダブルファスナーポーチ」ができるまで

商品作りの最初のステップは、商品企画を立案することです。クラフトリンクではフェアトレード部門の職員が全員参加する「商品開発会議」を開催し、さまざまな方面からの意見を出し合いながら商品を決めていきます。今回は「幅広い年齢層のお客さまに使ってもらえるようなアイテム作り」というテーマの基に行われた商品開発会議の一コマをご紹介します。

○月△日シャプラニールの会議室にて…

赤井 希（あかい・のぞみ）
営業担当。2017年8月よりクラフトリンクグループに参画。過去にフィリピンで青年海外協力隊員として手工芸品制作にかかわる。

赤井　3,000円を超える小物は、手を出しづらいよね。特にクラフトリンクのイベント販売をやってくれる学生さんには**優しい価格**にしたほうがフェアトレードの商品を使ってもらいやすいはず。

宮原　価格を抑えめにすることは賛成。でも安さを追求して、シンプルなアイテム作りをすると作業工程が減り、**生産者の仕事が減ってしまう**可能性も。本末転倒になってしまうのも困るな…。

赤井　シンプルすぎると面白みがないし、すでに過去の商品でも似たものがありそう。**お客さまが「便利だな」と思ってくれる**ような商品がいい。

野口　パートナー生産団体WSDOの強みは生地の色合い。2、3種類色違い商品があると、カタログの見栄えもよくなるね。

宮原　色違い商品が多すぎるのも、好みが分散して在庫が残ってしまう可能性もあるので、バランスが大切だよね。

野口 歩（のぐち・あゆみ）
カタログ担当。2017年12月より職員に。入職前はフェアトレード系ブランドのカリスマ販売員として活躍。

野口　確かに。3色展開でも多すぎるかもしれない。寒色、暖色の2系統で考えるのがよさそう。

宮原 麻季（みやはら・まき）
商品開発担当。2012年から約4年間ネパール事務所長として赴任後、クラフトリンクグループへ異動。

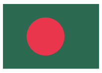
宮原　機能性は大事だけれど、**あまりにも構造が複雑だと生産者に無理を強いることになる**から避けたいな。直線縫いを組み合わせてポケットがたくさんついているようなポーチだったら、現地の縫製技術を生かしながら、機能性も担保できるんじゃないかな。

議論はつづく…

乾期に加え、至る所で工事が行われているので砂埃がすごく、目も喉もツライ。雨が待ち遠しい。（内山智子／バングラデシュ駐在員）

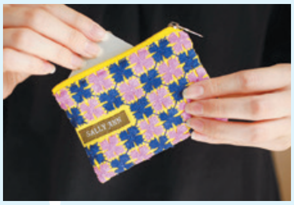
パートナー生産団体紹介

バングラデシュ
Bangladesh



●クムディニ
ブロックプリントの衣類が人気。ブロックプリントとは手彫りの木版を手作業で何度も布に押し当てる印刷技法で、クムディニではさまざまな木版が制作されています。

●サリー・アン
現地で「マコシャール・ジャール（蜘蛛の巣）」と呼ばれる、お花畑のような模様の刺しゅうの商品が人気。一針ひと針、バングラデシュの村の女性たちが縫っています。

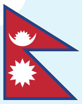


●ジュート・ワークス
シャプラニールが1974年に手工芸品販売を始めた時からの長い付き合いです。ジュートのバッグやサンダル、素焼のキャンドルなどクラフトリンクの定番商品をたくさん作っています。

●プロボルトナ
定番&大人気の手ぬぐい「ガムチャ」などを作っています。ガムチャは余り糸を用いており、時期によって色の組み合わせが変わるので、何枚でも欲しくなってしまいます。

●プロクリティ
手すきのカードやリユースサリーのブランケットが人気です。ブランケットは、着古したサリーを刺し子で重ね合わせて作られており、物を長く大切に使う知恵が生きています。

ネパール
Nepal



●インドラ・カマル
ネパール男性の帽子「トピ」などに利用される伝統的な織物「ダッカ織」専門！横糸を切らずに縦糸に通して模様が作られ、裏面を見ながら織り作業を行うため高度な技術が必要です。

●ACP
（Association for Craft Producers）
フェルトの特性を生かしたシンプルで可愛らしいデザインの商品づくりに定評があります。ネパールの雪男「イエティ」のマスコットが大人気です。

●サナ・ハスタカラ
人気の「お座りネコのペンケース」や「ティミの陶器」など、商品名を付ける際にワクワクするような可愛らしいデザインと幅広い商品群が自慢です。

●WSDO
（Women's Skills Development Organization）
地機織り（じばたおり）という伝統技法による手織布の小物やバッグといえばこちら。イベント販売やギフトに大人気、端切れを活用した商品！

●マハグティ
竹布や手織布の衣類はおまかせあれ。人気のsheソープ（ビュータン）にはリップバームも加わりました！その他に手織布を使用した衣料品なども手がけています。

2018年6月の来日時に講演会を行った際の
ジュートワークス　ギティさん（後列、右から3番目）

思いを共にする パートナー生産団体

クラフトリンクはバングラデシュとネパールで計10団体をパートナーとして、共にフェアトレード事業を行っています。パートナー生産団体は、技術トレーニングだけでなく、子どもの奨学金や託児所の提供など生産者のための福利厚生を充実させながら、生産者の雇用機会の創出と生活向上のため活動しています。

私たちクラフトリンクにとってパートナー生産団体は単なる生産団体ではなく、「取り残された人々」に寄り添い志を共にする協働者です。パートナー生産団体が現地のフェアトレード活動を牽引していくことは、すなわちより多くの生産者に雇用機会と変化をもたらすことだと考えています。

バングラデシュのパートナー生産団体の一つである「ジュートワークス」の担当者ギティさんが、団体のあるべき姿について語ってくれたことが印象的でした。海外のバイヤーから大量発注をするので値引き交渉があった際に、バイヤーを生産者が暮らす村まで案内したそうです。そしてバイヤーに「ここで暮らし、家族の生活を支えている生産者の賃金を減らすことは断じてできない。私たちの組織はそれ以外の経費を減らす努力は惜しみません」と伝えたそうです。

彼女の話から伝わってくるのは、バイヤーに生産者や生産者の生活を理解してもらおうとする姿勢、そして生産者の賃金を最優先しながら、ビジネスを作り上げていく姿です。

「誰のために、そして、どんな変化を起こすために活動しているのか」という思いを常に持ち続けるパートナー生産団体が現地にいることこそが、クラフトリンクの礎になっているのだと考えます。

クラフトリンクグループの宮原職員（右）とパートナー生産団体との定期ミーティングの様子

年末年始を楽しく美味しく過ごした後の健康診断は良くないと思いました。（小川晶子／国内）

Pick Up !

パートナー生産団体はそれぞれ生産者の福利厚生の環境整備をしています。
その中で特徴的な取り組みをしている団体を2つピックアップしてご紹介します。

ネパール

生産者へ“社会とつながる”機会を提供「ACP（Association for Craft Producers）」

オープン・デイの様子。各地から多くの生産者が店舗に集まりました

ACPは年に一度、各地の生産者を店舗に招く「オープン・デイ」というイベントを実施しています。ACPの生産者の多くは農村部で働いており、交通の便が悪いため大きな町へ出かける機会は滅多にありません。また、男性優位社会やカースト制度の影響がいまだに根強く残っているという背景もあり、女性が90%を占めるACPの生産者が積極的に社会にかかわる機会も多くありません。

「オープン・デイ」ではACPが準備したバスで各地の生産者が首都にあるお店に集まり、他の生産者や外部の人々との交流の場がもたれます。生産者にとって、お店で自分たちの作った商品が綺麗にディスプレイされている様子を見たり、店に立って購入者と接したり、招待された国内外のバイヤーと話をしたりすることは、商品づくりへのモチベーションが向上するだけでなく、彼女たちの自尊心を高めることにもつながっています。

バングラデシュ

生産者を“自立”させ組織を拡大する「プロクリティ」

セークレットマークの石けん生産風景。生産者（左）とマネージャー（右）

セークレットマークで作られたSheソープ。生産者である女性たちの写真が箱に印刷されています。

プロクリティはキリスト教系NGOの手工芸品部門が1991年に独立してできた団体です。プロクリティの生産部門は「ユニット」と呼ばれています。この「ユニット」は単に生産者の集団という性格のものではなく、更に発展してリーダーシップトレーニングなどを提供し、生産者が管理者になれるような支援体制を取っています。また「ユニット」が更に高度化すると「エンタープライズ」として独立した企業になっていきます。このように生産者の「自立」を支援する体制が整っていることが強みと言えます。

一方で、プロクリティは出荷前の品質チェックや販売促進など、小さな団体では手の回らない部分を補完する役割を担っています。例えば、クラフトリンクのSheソープ マイメンシンシリーズは、プロクリティからエンタープライズとして独立した「セークレットマーク」という団体が作っています。高い品質を保てているのもこの体制によるものだといえます。

クラフトリンクモデル INTERVIEW!

きむらゆきさん

モデル、カメラマン、ヘアメイク、カタログデザイナー…クラフトリンクでは毎回たくさんの方の協力によりカタログを発行しています。
今回は、2007年より10年以上クラフトリンクのカタログモデルをボランティアで引き受けていただいている俳優のきむらゆきさんに、シャプラニールと出会ったきっかけや、長年かかわり続けている理由、その魅力について伺いました。

――俳優業をされている中で、ボランティアでクラフトリンクのモデルを引き受けるきっかけは何だったのでしょうか。

二十歳の時に縁があり、タイで開催されたさまざまな国のフリースクール関係者が集まる会議に参加しました。会場はタイのストリートチルドレンを保護している施設で、ディスカッションや報告などをしながら合間に子どもたちと一緒に遊んだりごはんを食べたりしました。皆人懐っこくて日本の子どもたちと似ているなと思っていたのですが、家事労働で雇い主からひどい待遇を受けて飛び出し、行く当てがないまま路上で生活をするようになった話を聞き、そのような背景を持っていることに強く衝撃を受けました。

また施設では、子どもたちが染物や手織りの技術を学び、手に職をつける自立支援をしていたのですが、その商品を購入することが支援になり、同時に人と人がつながれるということを知り魅力を感じました。そのような子どもたちが作った商品を紹介する一つの媒体として、カタログがあります。寄付という支援の手段もありましたが、当時は役者を始めたばかりで金銭的な支援が難しかったので、モデルなら今までの経験を生かすことができる上に無理なく参加できるかなと思い、シャプラニールのカタログモデル募集に応募したのがきっかけです。

——カタログ撮影の現場にはどのような印象がありますか？

10年以上一緒にカタログを作っていますが、撮影の現場に入る度に皆でカタログを作り上げているということがすごく伝わってきます。たとえクラフトリンクの職員が変わっても、その部分は変わっていません。皆さんは忙しくてもアットホームな雰囲気があるのが印象的です。また、商品が作られる過程や、実際に商品を作っている現場を知っている人がいるので、商品を身に着けることで生産者や現地のパートナー生産団体とのつながりを感じることができます。ただ服を着て撮影するのではなく、自分がカタログの読者に「物語を伝える架け橋」のような存在であることを認識させてくれます。

——撮影時に意識していることがあれば教えてください。

実はあまり写真を撮られるのが得意ではないのですが、少しでも自分が役に立てるなら、というモチベーションで撮影に挑んでいます。あとは、スタイリッシュなモデルというよりも、カタログを見る方にとって身近に感じてもらえるような存在であるように心がけています。

——ご自身の中で大切にしていることはありますか？

今は2歳の息子がいるので何よりも家族との時間を大切にしています。毎日いろんなことがあって面白いですし、時には演技の勉強になることもあります。息子の成長を目の当たりにすると自分もがんばろうという気持ちになり、良い刺激になっています。子どもと密にかかわれる時間は限られていると思うので、家族と仕事のバランスをその時々で考えながら、今後も俳優業を続けていきたいです。

PROFILE

きむらゆき

1980年7月18日大阪生まれ。俳優。株式会社エージェントオフィスタクト所属。映画、CMを中心に活躍中。主な映画出演作に「東京ハロウィンナイト」「海街diary」「いさなとり」などがある。

きむらさんが初めてクラフトリンクのモデルを務めた2007年秋冬カタログとともに

最新のカタログでは浴衣のショットも！

2019年春夏号カタログの撮影風景。左がきむらゆきさん

結びにかえて

１９７４年にバングラデシュで発生した大洪水の復興支援活動として手工芸品の生産活動が開始され、これがシャプラニールのフェアトレード活動の始まりとなりました。

シャプラニールのフェアトレードの取り組みは、開始以来生産者の雇用創出と収入向上を主な目的に据えています。そして、「クラフトリンク」はその名のとおり、クラフト（手工芸品）を通じて地球上の人々とリンクする（つなぐ）活動を目指しています。

本特集では、「皆さまの手元にクラフトリンクの商品が届くまで」という切り口で、生産現場だけでなく、普段なかなか表に出てこない商品開発やパートナー生産団体、カタログ制作を担う人にもスポットを当てました。すると、バングラデシュやネパールの生産者の努力のみならず、日本国内でかかわる人々の思いもあわせて伺い知ることができました。

今回見えてきたものは、モノを作り、売るということだけでなく、現地で作られたものが日本のマーケットでより広く受け入れられるように奮闘する人々の姿でした。生産者の能力がより多く、大きく発揮できるような「場」を増やすために、日本国内のボランティアやスタッフ、現地のパートナー生産団体がそれぞれ自分たちのできることを考え、力を尽くしている姿からも「つながる」という形を見出すことができました。

そこで感じるのは、このような取り組みはなんと温かいものだろうか、ということです。海の向こうの生産者に思いを馳せ、より多くの市民が生産者の作り出すものを手に取れるようにと考え、奮闘する姿こそがクラフトリンクの価値の一つであり、人と人とのつながりや思いやりという「国際協力」の核をなす部分なのだと思います。

日本国内において、フェアトレード市場は拡大しているものの、手工芸品の売り上げは横ばい、もしくは減少傾向にあります。

このような厳しい状況のなかで、私たちシャプラニールがすべきことは、この連綿と培われてきた価値を損なうことなく、新しい方向性を打ち出し、実行していくことだと考えます。

10年前のノクシカタ製作現場の様子

お子さんを背負ってカタログ撮影をしてくれたカメラマンさん

クラフトリンク職員（左）、バングラデシュ事務所職員（中央）、生産者（右）で商品作りの話し合いの様子

 最近、毎晩3才の娘に「一緒に寝よーお手手まくら（腕枕）してー」と誘われて困っていま…せん。（菅原伸忠／バングラデシュ事務所長）

「心」に寄り添う支援を

～ロヒンギャ難民支援報告～

難民流入直後の物資の緊急配布に続いて、昨年11月にロヒンギャ難民支援に携わる現地職員を対象とした研修を実施しました。研修の意義や実施を通して見えたことを報告します。

事務局次長／海外活動グループチーフ　藤﨑文子

研修の様子。不安を和らげるテクニックを受講者（現地職員）も体験。手前は研修講師

ミャンマーから逃れてきたロヒンギャの存在が世界の注目を浴びてから１年以上が過ぎました。国際社会による支援とバングラデシュ政府のコーディネーションが進み、コックスバザールの難民キャンプでは、食糧や住居、医療などの支援はある程度行き渡るようになっています。一方で、ミャンマー国内での暴力や人権侵害で傷ついた人々の心理的支援が十分に行われているとは言い難い状況です。バングラデシュに避難した現在でも混雑したキャンプでの生活は厳しく、女性や子どもに対する暴力などの危険性が高まっていることへの懸念はぬぐい去れません。

難民急増直後の緊急救援実施と定期的な現地視察を行ってきたシャプラニールは、手薄となっているこの心のケアに焦点を当てた研修を実施することにしました。最前線で働く現地職員が人々に寄り添う支援をできるようになれば、制限の多い避難生活でもロヒンギャの人たちの苦しさを軽減することができると考えたからです。研修講師は、かつてストリートチルドレン支援事業の職員などを対象とした類似の研修を実施してもらった日本人専門家に依頼しました。

研修では、心的外傷後ストレス障害（ＰＴＳＤ）の理解や効果的なコミュニケーションの方法、職員のセルフケアなどを取り上げました。事例紹介やエクササイズを取り入れたことで、

コックスバザール難民キャンプでは井戸と男女別トイレが作られており、前回訪問時より環境が大きく改善されていた

妊婦（右）を訪問し体調に変化がないか聞き取るロヒンギャのボランティア（左）

研修講師が一人ひとり受講者の体験を聞き取る

研修で学んだことを受講者同士で実践する

現場の経験と研修がつながる学びの深い研修となりました。参加者の感想からも今回の研修は求められていた内容と合致していたことも確認できています。

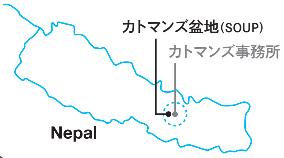
なお、この研修はヘルスクリニック運営と妊産婦の検診等を行う日本の人道支援ＮＧＯピースウインズ・ジャパンと協働で行いました。現場のネットワークを生かした手配やきめ細かなサポートを得られたことで研修の効果が更に発揮できたと思います。この研修をきっかけに新たに見えてきたこともありました。人口の40％を超える難民を受け入れている地域住民の寛容さ、現場の従事者の献身的な姿勢、隣人を助けるロヒンギャのボランティアの姿は「無力」「支援に依存」といった一面的な難民像を覆し、支援する側の私たちに大きな励みを与えてくれました。現場では心理的ケアが圧倒的に不足しており、かつ現場のニーズが高いことが確認されたので、来年度も研修を継続したいと考えています。

別れを惜しんで記念写真を取り合う参加者たち

シャプラニールでは、バングラデシュとネパールで現地パートナー団体とともに活動を実施しています。
今回は、バングラデシュの初等教育支援活動、そしてネパールの地震復興支援活動についてご報告します。

地域で命を救う、地震復興&防災プロジェクト

パートナー団体：SOUP（スープ）



より多くの人に防災を伝えたい

　現在、2つの防災学習センターを拠点に2015年4月の大地震で大きな被害を受けた地域での防災情報の普及を進めています。毎月、家具の固定や非常持ち出し袋などテーマを決めて情報を伝えています。

　11月には周辺住民の要望を受けて地震と火事をテーマにしました。なぜなら11月にはイルミネーションやろうそくで家や玄関を飾り、富や財を司るラクシュミーという女神（日本の吉祥天）を家に迎えるティハールと呼ばれる祭りがあるため、火事の危険性が高まるからです。地震の揺れでプロパンガスのボンベが転倒して火事にならないように鎖などで固定するということも伝えました。このような工夫を重ねた結果、当初は少なかったセンターの利用者数も増えています（表1）。

　また、2019年4月開始予定の学校における防災教育の準備を進めています。活動地域にある学校の防災教育に対する関心や実施状況などを調べ、4-8年生（日本の中学2年に相当）を対象に10校で実施することを決めました。2015年の大地震の後、多くのNGOなどが地震防災のハンドブックや資料を作成、発行しました。私たちはこれらの既存の資料を活用して、地震の仕組みや家でできる地震対策、通学路の危険・安全な場所などについて子どもたちが理解・実践しやすいカリキュラムを作ろうとしています。

　次に地震が起きた時に子どもも大人も自分の命を守れるよう、引き続き活動を進めていきます。

勝井裕美（ネパール事務所長）

表1：シャプラニールの防災関連イベントに参加した人数 ※1
（2018年2月～11月末現在まで）

	2018年2-3月	4-6月	7-9月	10-11月
カトマンズ市	64	314	1,997	880
ラリトプール市	※2　38	265	912	299
合計	102	579	2,909	1,179

※1：防災学習センターへの来場者数だけでなく、担当職員が学校や外部の団体のイベントに出かけて防災情報を普及した人数を含む。
※2：ラリトプール市の防災学習センターは2018年3月開設。

自分の家を防災地図で探す子どもたち

PROJECT・NEWS
プロジェクト・ニュース

明日も学校へ行こう！ プロジェクト

パートナー団体：PAPRI（パプリ）

県内すべての世帯を調査中

シャプラニールとパートナー団体PAPRIは、2015年から川の中洲地域（チョール）であるパラトリユニオン（行政村）においてコミュニティを通じた初等教育環境改善事業を実施しています。現在この事業を1年間延長し、パラトリの全世帯調査を行っています。この調査は、地域における就学や進学、ドロップアウト等の状況を把握し、課題を浮き彫りにすることが目的です。その結果、SDGsの目標4に掲げられた「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」を実現するために、今後どのような活動がこの地域で必要なのかを考えることができます。

このパラトリユニオンには6,086世帯が生活しています。全世帯を訪問しデータを集めるために6人の調査員を地元で雇用しました。0歳から15歳の子どもがいるかを確認し、その子どもたちが就学年齢になっている場合は、学校に行っているかどうか、何年生か、どこの学校か、など細かく聞き取ります。その他、世帯の経済状況などさまざまな情報を集めます。

調査員は各家を訪問し、まず調査の目的を説明するのですが、子どもの教育に関することだとわかるととても協力的に答えてくれます。政府の小学校から公教育に準じた教育も行うマドラサ（イスラム宗教学校）に転校させた事例や、3年生で中退し別の学校に再入学した際に1年生から履修している例、マドラサの中でも宗教のみを教えるコウミ・マドラサへ通わせたいと思っている親も少なくないなど、この地域における現実が少しずつ見えてきました。

この調査結果を分析し、この地域の課題を明らかにすることで、すべての子どもたちが初等教育を受けられる地域づくりをしていきたいと思っています。

モハマド・アラウッディン（PAPRI　プロジェクトコーディネーター）

6人の調査員に聞き取りの進め方などを共有するミーティングを実施

世帯を訪問し聞き取りをしている様子

韓国旅行に行ってきました！美味しいものをたくさん食べて、元気満タン。カタログ作りに励みます！（野口歩／クラフトリンク）

理事・評議員からのメッセージ

シャプラニールの運営にかかわる理事・評議員から、ご自身の活動や専門性の高いトピックに焦点をあててレポートいただきます。タイムリーな話題、広い視野から多角的な海外協力の今をお伝えします。

「誰も取り残さない」を応援する〝評価〟があります

シャプラニール理事／CSOネットワーク代表理事
今田 克司

日本帰国から6年、評価の世界へいざなわれる

2013年に南アフリカから帰国してそろそろ6年になろうとしています。それまで、CIVICUSという世界各国の市民社会強化に尽力する国際NGOで働いていたこともあり、帰国後すぐシャプラニールの理事へのお誘いをいただきました。

帰国後は、なかばいざなわれるように「評価」の世界へと入って行きました。「評価」は、例えばNPO／NGOの事業や活動など、ある評価対象の価値を引き出すものであり、価値を見極めるものです。CIVICUS時代も、評価手法の使い手として、いかに「やらなければならない評価」から「自分ごとの評価」、「役に立つ評価」へと発想と実践の転換をできるか考えてきましたが、それを日本で大きく展開すべき時代的状況が徐々にそろってきました。

代表理事を務めているCSOネットワークで、複雑な世界や状況に対応すべく考案された「発展的評価」の研修事業を開発・実施し、日本NPOセンターでは、NPOや日本国内の地域社会のニーズに即した評価のあり方を模索するなかで、事業評価コーディネーター研修をはじめました。同時に、「社会的インパクト評価イニシアチブ（SIMI）」にも共同事務局メンバーとしてかかわり、社会的インパクト評価（注）の具体的なあり様に関して、ガイドラインを作成するなどしています。

国際開発の最前線と評価

日本国内のNPO／NGOでは、まだまだ評価に対するアレルギーが強く、これは特に評価を「やらされるもの」と感じている人や団体に蔓延していると思います。ところが、海外に目を転じると、国際開発の潮流、評価の最新動向、経営学の知見など、一見関係のない世界に横串を通すような共通理解が進みつつあることに気づきます。それをひとことで言い表すなら、

PROFILE

今田 克司（いまた・かつじ）

米国（6年）、南アフリカ（5年半）含め、国内外でNPOマネジメント歴24年。（一財）CSOネットワーク代表理事、（特活）日本NPOセンター副代表理事、（一社）SDGs市民社会ネットワーク業務執行理事。
発展的評価研修事業、社会的インパクト評価イニシアチブ（SIMI）におけるインパクト・マネジメントの開発など、NPO/NGOやソーシャルセクターに「役に立つ」評価文化を根づかせる試みでも牽引役を果たしている。

複雑な世界に適応していかにインパクトを出すのか、という問いに対する解答の模索とでも言えるでしょうか。

国際開発の世界では、5年ぐらいまえから、DDDとかTWPという頭文字が踊るようになってきています。DDDとは、Doing Development Differently（異なるやり方で開発をやる）の略で、TWPは、Thinking and Working Politically（政治的に考え行動する）の略です。これらは、国際開発の世界における、成果・インパクト志向のひとつの集約点になっています。単純化していえば、それまでの開発援助の主流であったプロジェクトを単位として事業を展開するやり方の限界を見て、社会的文脈や政治力学に直接・間接に働きかけることで結果を出していこうという試みです。

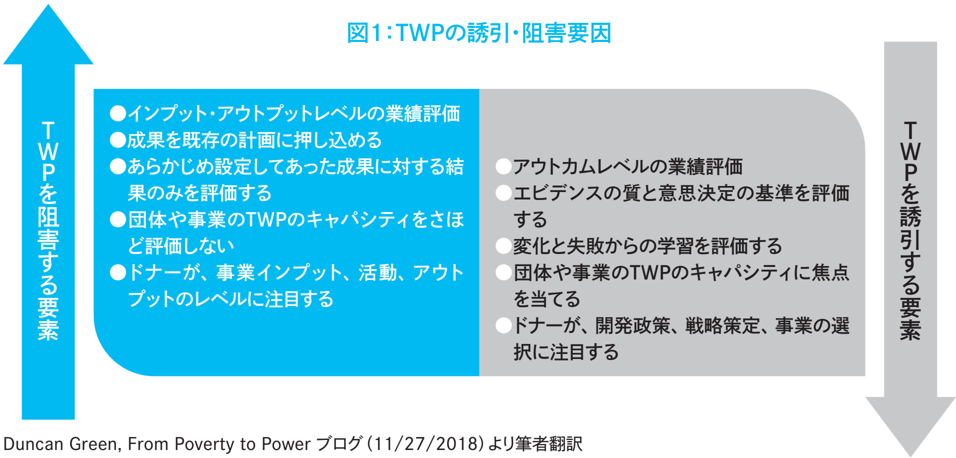
SDGsの時代、さまざまなグローバル課題の解決のための圧倒的な資金不足が言われるなかで、いかに効果的・効率的に資源投入を行うことができるのか、そのためにこれまでの開発のやり方はいかに進化しなければならないのかが重要なテーマとなっているのです。

2018年10月、ギリシアで行われたヨーロッパ評価学会の基調講演で、「評価の未来」について話すトマス・シュワント氏（イリノイ大学教授）。評価の動向に触れるなかで、TWPに言及している

複雑な世界における「役に立つ評価」とは

TWPを簡単に模式化したものが図1ですが、ここで言われていることは、国際開発以外の評価の最新動向で言われていることとほぼ同じです。ただし、TWPという用語自体は、国際開発の文脈以外では使われないので、「団体や事業のTWPのキャパシティに焦点を当てる」は、より一般的なことばに言い換えれば「事業実施団体が、政治権力分析、レバレッジ・ポイント（てこの作用点のように小さな力でものを大きく動かせるポイント）の発見、フィードバック・ループ（フィードバックを繰り返すことで、結果が増幅されていくこと）を速くまわして組織学習につなげるといった、自らのキャパシティ（能力）に焦点を当てる」となるでしょうか（「一般的なことば」ではないですね。すいません）。

図1：TWPの誘引・阻害要因

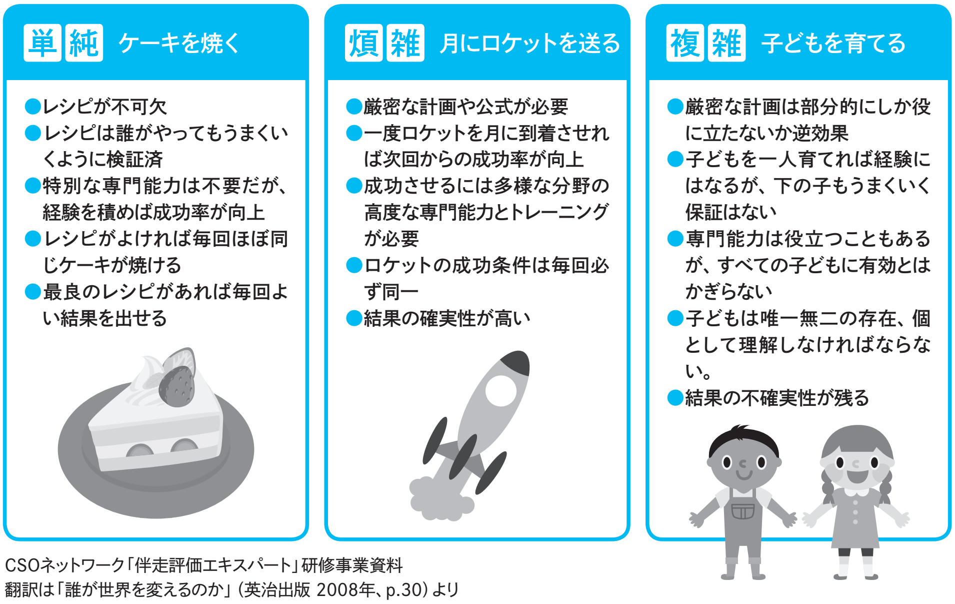


Duncan Green, From Poverty to Power ブログ（11/27/2018）より筆者翻訳
https://oxfamblogs.org/fp2p/thinking-and-working-politically-why-the-unexpected-success/

 納豆、おから、押し麦が最近のブームです。並べてみると健康志向に見えますね、私。（藤﨑文子／事務局次長）

これらのポイントは、発展的評価の基礎では繰り返し出てくるものです。複雑な状況（図2 3種類の状況「子どもを育てる」を参照）においては、事業計画段階でしっかりロジックモデル（ある施策がその目的を達成するに至るまでの論理的な因果関係を明示したもの）あるいはPDM（＝プロジェクト・デザイン・マトリックス。国際協力における事業運営手法であるプロジェクト・サイクル・マネジメントで使われる、事業の概要をまとめて表すための書式）を作っても、政治・社会状況をはじめとした事業環境が変化してしまい、あらかじめ設定した成果目標が役に立たないということもよくあります。そういった場合の評価はいかにあるべきか、いかに事業者や受益者の役に立つことができるのか。発展的評価ではそのように問いかけます。

図2：3種類の状況



CSOネットワーク「伴走評価エキスパート」研修事業資料
翻訳は「誰が世界を変えるのか」（英治出版 2008年、p.30）より

「誰も取り残さない」ために

DDD／TWPの一連の取り組みでも、「誰のために」が問われます。「誰も取り残さない」を掲げて活動しているシャプラニールには、ここにおいて一日の長があり、それを最大限生かし、アピールしていくことができると思います。

また、発展的評価をはじめとした一連の流れにおいては、評価者に必要なスキルは、データ収集や分析の技法（テクニカル・スキル）よりもむしろ事業者との関係構築、傾聴力、評価的思考などの姿勢や考え方（ソフト・スキル）だと言われています。現場で「寄り添う」活動を実践しているシャプラニールは、その活動の価値やインパクトを上手に引き出す良質の評価によって、活動の価値の見える化をさらに進めることができると思います。

注：社会的インパクト（短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の結果として生じた社会的、環境的な効果）を定量的・定性的に把握し、当該事業や活動について価値判断を加えること。2016年6月に内閣府が発表した「経済財政運営と改革の基本方針2016（骨太方針）」にも明記され、社会の注目が高まっている。SIMIでは、これを「社会的インパクト・マネジメントを実践していくための評価」と定義し直している。

シャプラニールの「バングラデシュの家事使用人として働く少女支援」でも2019年度に社会的インパクト評価を実施予定

クラフトリンク

新発売

クラフトリンクからのお知らせ

『太陽とヒマラヤの恵み 香るチャイマサラ』販売開始します

クラフトリンクは、「太陽とヒマラヤの恵みシリーズ」の新商品「香るチャイマサラ」の発売を開始します。
南アジアのお茶を手軽に作れるチャイ用のマサラ（混合香辛料）です。
お好みの紅茶を使ってぜひチャイをお楽しみください。

原材料はジュナール、シナモン、ブラックカルダモン、生姜、シナモンリーフだけ

ネパール原産の柑橘類、ジュナールの木

「お茶を飲みましたか？」「ええ、さっき飲んだのよ」—ネパールでは「こんにちは」の代わりに出会いがしらにこんなあいさつが交わされます。チャイ（香辛料を煮込んだミルクティー）は起き抜けの一杯として、午後の語らいのひと時に、生活に欠かせない飲み物です。その日の体調や気温によって、お茶の中に入れるマサラを加減して作るそうで、作り手の思いやりが伝わってきます。

「太陽とヒマラヤの恵み 香るチャイマサラ」は、ネパールでチャイを作る時に使う一般的な香辛料の生姜やシナモンに加えて、「ジュナールピール」というネパール原産の柑橘類の果皮を乾燥させたものを加えたクラフトリンクのオリジナルレシピです。さわやかな柑橘系の香りのするチャイをお試しいただけますし、パウンドケーキやスムージーなどに入れてのアレンジもお楽しみいただけます。

チャイを飲んで、南アジアへ思いを馳せてみませんか？

※本商品は溶かすタイプの粉末飲料ではありません。
　お好みの紅茶の茶葉と一緒にお楽しみください。
※紅茶は商品に含まれません。

おすすめレシピ

（2人分）
牛乳…150ml
水…150ml
紅茶葉…ティースプーン山盛り1杯（5〜6g程度）
砂糖…大さじ1杯（お好みで加減してください）
香るチャイマサラ…小さじ半分（お好みで加減してください）

1. 小鍋に水、茶葉、本品を入れて中火にかける
2. ふつふつと沸いてきたら、火を弱め、1〜2分ほどしっかり煮出す
3. 香りがたってきたら、牛乳と砂糖を入れる
4. 時々かき混ぜながらゆっくり温め、沸騰する直前に火を止める
5. 茶こしで濾して、カップへ

太陽とヒマラヤの恵み　香るチャイマサラ

コード番号：16105
価格：540円（税込）
内容量：20g
発売日：2019年2月中旬（予定）

詳細は2019年春夏クラフトリンクカタログP.10〜11またはオンラインショップ（http://www.craftlink.jp/nepalchai.html）をご覧ください。

朝活を始めました。1年間続けられるように頑張ります！（宮原麻季／クラフトリンク）

シャテシャテ!

一緒に、ともに（ベンガル語）

企業と連携することで新しい流れが生まれています。
このコーナーではさまざまな形で連携にご協力いただいている
企業や団体の活動にスポットをあて、ご紹介しています。

株式会社ミナトマネジメント

インタビュー／事務局長　小松 豊明

昨年、子どもたちへの支援になれば、と寄付をいただいた株式会社ミナトマネジメント。代表取締役の倉本さんほか社員のみなさんにお話を伺いました。

―どんな会社なのか、教えてください。

倉本　ミナトマネジメントはファンドの管理運用会社で、投資家から資金を預かりそこから利益を生み、分配するのが仕事です。〝ファンド〟というとハゲタカのようなイメージがあるかもしれませんが、私たちは短期的な利ザヤを稼ぐ「濡れ手に粟」のような商売ではなく、世の中に役に立つ投資活動をめざしており、太陽光発電や船舶などインフラへの投資を主に行っています。「嘘をつかないこと」がポリシーのひとつであり、それによって信頼も得られ、顧客との継続的な関係を築くことができていると思います。

―今回、シャプラニールを寄付先として選んだ経緯を教えてください。

倉本　会社のあり方として、社会貢献をしなければならないと以前から考えていました。ある程度の余裕ができ、自社のブランディングを考えるようになって、自分たちがやれることは何だろうか、と考え始めたのです。顧客と距離が近いところでビジネスをやってきた私たちだから、距離感の近いところへ寄付をしたい、根を張った活動に役立ててほしい、と社員みんなで検討しました。そんな時に以前の同僚だった岩城さん（シャプラニール代表理事）が、NGOに関わっていたことを思い出し、相談したことがきっかけです。

―寄付先として他にもアイディアはあったのでしょうか。

社員・加藤さん　はい。最初は「海外に学校をつくろう」と考えました。しかし、学校を建ててもその後の運営を継続させることは大変だとわかり、そのアイディアは断念。他にも猫の里親活動や、子ども食堂など日本における子ども支援の活動に寄付してはどうか、という意見もありました。

社員・杉江さん　私は、「寄付先は信頼できるところがよい」と考えていたので、その点シャプラニールへ寄付することに心配はありませんでした。

虎ノ門にある素敵なオフィスで社員のみなさんと。前列中央が倉本社長、右端が杉江さん、後列左が加藤さん。社員のみなさんの笑顔がとても印象的でした

シャプラバ

このコーナーではシャプラニールをさまざまな形で支えてくれる皆さまの、
シャプラニールとのかかわりや海外協力への思いなどをご紹介します。

シャプラニールのサポーターに「伝わる誌面」を

柴田　篤元さん
会報誌「南の風」デザイナー、マンスリーサポーター

5年ほど前に、今も仕事をいただいている編集の方からお話をいただき、シャプラニールの団体紹介リーフレットをデザインしました。それがシャプラニールを知るきっかけとなり、昨年、会報誌「南の風」のデザインを280 号から担当することになりました。

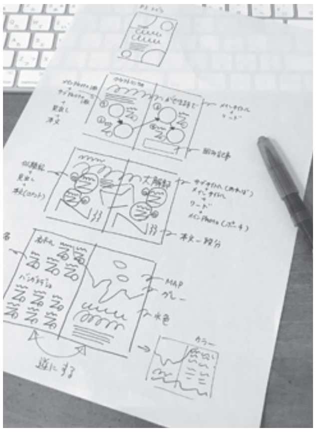
普段仕事をする時に意識していることは「その先にいる相手のことを考える」です。当たり前のことですが、相手に伝わるものをデザインできなければ意味がありません。伝わるものをデザインするにはまず理解が必要で、「南の風」でいうと編集会議から参加させていただき、その号での特集内容などをお聞きし、意見交換やページ構成などの提案をしながら進めていきます。これは広く見渡す作業と言えるかと思います。

実際に作業が始まると、まずそのページでは何を伝えたいのかを把握・整理します。疑問などがあれば担当の編集の方に質問をし、デザインイメージの擦り合わせを行ないます。これは掘り下げる作業と言えるかと思います。その2つが「南の風」でのデザイン作業の基本となり、そこから実際にデザインイメージを具体化、誌面に落とし込んで行きます。

これはデザインに限ったことではなく、普段の暮らしの中で人々が行なっていることであって、先輩の言葉を借りれば「生活のすべてはデザイン」であり、またシャプラニールの支援活動にも同じことが言えるかと思います。

困っている人たちがいる地域へ赴き状況を把握し（=広く見渡す作業）、それを改善するにはどうしたら良いかを考える（=掘り下げる作業）。その活動を身近に知ることができ、昨年マンスリーサポーターになりました。

これからも、シャプラニールのサポーターの方々に、ネパールやバングラデシュ、日本国内での支援活動の状況を広く知っていただき、楽しんでもらえる、そんな「伝わる誌面」作りをシャプラニールの方々と一緒に行っていければと思っています。



「南の風」3月号特集の手書きデザインラフ

PHOTOきちゅね

シャプラニールの職員が1枚の写真をピックアップし、その写真についてざっくばらんに語ります。タイトルの「フォトキチュネ」は、ネパール語で「写真を撮る」という意味です。

日本の春!?

菜の花畑に桜が咲き誇る村の風景。日本の里山かしら?と思ってしまいませんか。実は稲刈りが終わった頃の11月に撮った、カトマンズ近郊のナガルコットという地域の風景です。標高2000mのナガルコットから村の中を下っていた時に、この黄色とピンクのコントラストに出会い、「今は春?」と不思議な気持ちになりました。油を採るために育てられている菜の花を横目に見ながらのトレッキングはとても気持ちよかったです。

勝井裕美（ネパール事務所長）

ハンチカ

毎号、シャプラニールの職員を紹介。
シャプラニールの東京事務所は、
半地下にあります。

クラフトリンクの
宮原麻季です。

Q.シャプラニール入職のきっかけは?

A.JICA青年海外協力隊でネパール派遣中に、当時のネパール駐在員だった勝井職員の話を聞いて、シャプラニールの仲間になりたいと思いました。入職後、2012年から約3年半ネパール事務所長として赴任しました。NGOで働きたいというのは学生時代からの夢でしたが、まわりまわってようやくたどり着けたと思っています。夢は叶うものですね。

Q.癒しのひと時は?

A.美味しいコーヒーを飲みながら、ネコを愛でる。（いつかネコを飼いたいです。）

Q.支援者の皆さまに一言。

A.会員さんやボランティアさんなど、色々な形でシャプラニールをいつも応援いただきありがとうございます。お目にかかって、またはお手紙でかけていただける一言にいつも励まされています。

今月の切手

ステナイ生活宛に毎月たくさんの珍しい柄や
面白い柄の切手が届きます。
その中から仕分けボランティアさんに
選んでもらった切手をご紹介します。
選ぶ基準は「おっ!」

ネパールの民族舞踏シリーズ。どれも全部見てみたいですね。

シャプラ文化部

実はあまり知られていない？

バングラデシュのスマートフォン事情

文・写真／内山 智子（バングラデシュ事務所長）

今やスマホやインターネットがない世界なんて想像できない！ そんな人も多いのではないでしょうか。バングラデシュも例外ではありません。バングラデシュでは、全人口の49%の人がインターネットを利用していると政府が発表しています。ある調査によると、バングラデシュのスマホ利用者数は、世界50カ国中2017年は50位（保有率5.2%）、2018年は22位（保有率16.8%）となっており、この1年でも普及が進んでいることがわかります。どうしてここまでバングラデシュでスマホが普及したのでしょうか。

下）1フロアに140軒もの店が並ぶ商業施設内

生活必需品

ダッカ市内ではUberなどのタクシー配車や、スーパーやレストランのデリバリー等のWEBサービスやアプリが普及し、スマホが生活の必需品となりつつあります。また、インターネット通信料金は日や週単位など、通信量や期間を細かく設定できます。年齢問わずセルフィー（自撮り）が大好きなバングラデシュ人にとって、一番のスマホの使い道は、カメラかもしれません。撮った写真や動画をその場でSNSに上げられ、必要な時だけ通信をつなげるなどの使い勝手の良さがダッカだけではなく地方でも普及した理由だと思います。

セルフィーを撮るバングラデシュの人たち

左）バングラデシュ製スマホを売る店には所狭しと商品が並んでいる
右）ショッピングビルの入り口を賑やかに飾るスマホブランドの看板

Made in Bangladesh

ダッカ市内の商業施設に入ると、中国や韓国メーカーの派手な宣伝が目につきます。バングラデシュメーカーのスマホを売る店も多く並び、さまざまな価格帯のものを販売しています。2万円前後のスマホが主流ではありますが、2,500tk（約3,300円）という超格安なものまであります。バングラデシュメーカーの携帯電話・スマホの売り上げは、国内シェアの35%以上を占めているとのこと。この国産スマホの登場が、バングラデシュ国内でスマホが一気に身近なものになった大きな要因かもしれません。

バングラデシュ駐在員帰国報告会を開催しました

「帰国報告会2018ーラジオで変える、バングラデシュで働く少女の未来」東京講演での猪瀬絢子職員

東京講演では前理事の日下尚徳さんにもご登壇いただきました

去る2018年10月24日から11月24日にかけて、全国5カ所で猪瀬絢子前バングラデシュ駐在員による帰国報告会を開催しました。
シャプラニールがバングラデシュで行う「家事使用人として働く少女支援活動」について、特にコミュニティラジオを通じた啓発活動について猪瀬職員が現地で感じた体験を交えお話をしました。シャプラニール会員の方々、バングラデシュにゆかりのある方、国際協力に関心のある方など計128名と多くの方にご参加いただきました。受け入れてくださった地域連絡会、ご協力いただいた皆さまにお礼申し上げます。

開催レポート公開中！

各地の開催レポート、猪瀬前駐在員からの講演終了のお礼を公式ウェブサイトで公開しています。ぜひご覧ください。
URL：https://www.shaplaneer.org/kikoku_18/

販売中！

書籍「わたし8歳、職業、家事使用人。ー世界児童労働者1億5200万人の1人ー」

東京講演の特別ゲストスピーカーとして登壇した日下部尚徳さん（東京外国語大学講師、シャプラニール前理事）著、藤岡恵美子さん（シャプラニール副代表理事）、事務局次長の藤﨑職員などが執筆協力をした本が発売されました。
バングラデシュで42万人以上いるとされている家事使用人として働く子どもたち。多くの子が10代の少女たちです。なぜ少女たちは学校にも行かず働かないといけないのか。どのような環境で働いているのか。少女たちやバングラデシュ社会が直面する問題や課題について迫った一冊です。是非ご一読下さい。

販売・お問い合わせ

シャプラニール東京事務所、クラフトリンクオンラインショップおよび全国の書店にて販売中です。

- **シャプラニール東京事務所　TEL:03-3202-7863**
- **クラフトリンク オンラインショップ　URL　http://www.craftlink.jp/shopbrand/book/**

お知らせ

理事・職員合同会議を開催しました

2018年11月17日、2019-2020年度の中期計画および2019年度の活動計画策定のため、理事と職員による合同会議を開催しました。

「海外活動」「フェアトレード」「組織運営」の各グループに分かれて2016-2018年度中期計画の振り返りを行った上で、2019〜2020年度に実施すべき取り組みについて話し合いました。その過程で、日本国内と海外の現場の課題をつなぎ、日本国内の課題に取り組む人々との連携を進めることについて、あるいは東京近郊以外の地方における活動の展開について次年度計画にきちんと書き込むことが確認されたほか、フェアトレードに関する取り組みの方向性については、大きな方向転換の可能性も含めて検討し方針を立てるため、理事・職員によるタスクフォースを立ち上げ、次年度計画へ反映させることが決まり、動き始めています。

会員総会のご案内

2019年度会員総会を以下の要領で開催します。正会員のみなさまへは改めて正式なご案内を差し上げますが、今から日程の調整をお願いいたします。

日時： 2019年6月22日（土）13:30-17:00
場所： アバコビル2Fチャペル
（シャプラニール事務所と同じ敷地内）
議題（予定）： 2018年度活動報告案および決算案／
2019年度活動計画案および予算案／
代表理事・理事・評議員・監事の選出

※総会終了後、懇親会を予定しています。こちらも是非ご参加ください。

評議員を募集します

2019年度の会員総会で選出する評議員の候補を正会員から公募します。評議員は年2回開催される評議員会に出席し、事業計画や収支予算のほか、さまざまな議題について理事会に対し助言、提案を行います。任期は2年、連続して2回まで再任される可能性があります（最長6年）。

候補となることを希望される方は以下の書類を理事会へ提出していただきます。理事会では、理事会推薦の候補者を加えて調整を行い、評議員会で意見をきいた上で最終候補者を総会へ提案します。

必要書類：
- 本人の履歴書
- 正会員2名からの推薦（推薦理由書添付）
- 評議員になることへの意見表明書

締め切り： 2019年3月9日（土）
書類の提出先・問い合わせ：
シャプラニール東京事務所（担当：小松）

理事会・評議員会の日程、議事録の公開について

理事会と評議員会は正会員に対して公開しており、オブザーバーとして参加可能です。2018年度後半の理事会および評議員会の日程は以下の通りです。参加を希望される方は準備の都合上、開催日の3日前までに事務局へご連絡ください。また、議事録もご希望の正会員へ公開しており、Eメール添付、FAX、もしくは郵送でお送りします。こちらもご希望の方は事務局へご連絡ください。

理事会： 2019年3月16日（土）、4月20日（土）、
5月25日（土）、6月22日（土）
評議員会： 2019年5月18日（土）

会報誌「南の風」へのご意見・ご感想をお寄せください！
どんなことでも構いません。お待ちしております。
E-mail press@shaplaneer.org
会報誌「南の風」担当宛

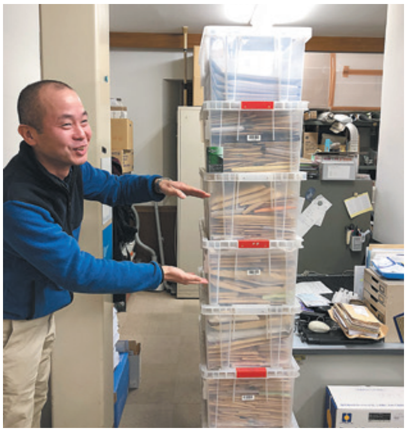
事務局だより

- 2018年11月に杉山さんが会計手続きの確認等のためネパールへ、藤﨑さんがロヒンギャ難民支援プログラム実施のためにバングラデシュへ出張しました。
- 2018年12月に鈴木さんが事業管理のためネパールへ出張しました。
- 2018年12月に猪瀬さんが、2019年1月に平澤さん（育休中）が退職しました。今後のご活躍をお祈りしています。お疲れさまでした。

余った年賀状やはがきはありませんか？

「あなたのはがきが、だれかのために。」キャンペーンへのご協力をお願いいたします

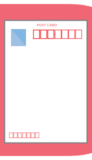
シャプラニールでは2019年3月31日まで、書き損じはがきを集める「あなたのはがきが、だれかのために。」キャンペーンを実施しています。すでにたくさんの方にご協力をいただいていますが、今年は昨年集めた約48万枚のはがき（2200万円相当）を上回る、50万枚のはがき（2500万円相当）回収を目標にしています。目標達成には皆さまのご協力が必要です。お手元に余った未使用はがきや書き損じはがきがありましたら、ぜひお送りください。



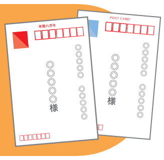
「一日でこんなにたくさんのはがきが届きます！」
総務の杉山職員からも喜びの声

送ってほしいもの

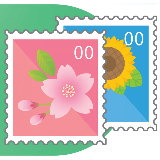
未使用はがき



書き損じはがき



未使用、使用済切手など



※そのほかにも金券、外貨、貴金属等も集めています。詳細は同封したシャプラ通信や回収用封筒をご覧ください。

送り方 同封した回収用封筒に入れて当会までお送りください。

送り先 〒169-8611 東京都新宿区西早稲田2-3-1 シャプラニール「ステナイ生活」係

仕分けボランティア大募集！

全国から届いたはがきや切手などを換金するためには、仕分けやカウントの作業が必要です。シャプラニールでは毎日、多くのボランティアさんがこういった作業をしてくださっています。キャンペーンに合わせて、作業をお手伝いいただくボランティアを募集しています。どなたでも簡単にできる作業です。ボランティアのみなさんとスタッフが交流するお茶の時間もあります。

これからボランティアを始めたい方、海外協力に関心をお持ちの方、仲間とわいわい作業をするのが好きな方など、皆さまのご参加をお待ちしています。

場所 シャプラニール東京事務所（東京メトロ東西線早稲田駅より徒歩5分）
募集内容 火～土曜の10時～18 時の間、1日2時間以上できる方
お申し込み先 TEL:03-3202-7863　FAX:03-3202-4593
E-mail sutenai@shaplaneer.org　ステナイ生活担当：上嶋